ジビニルベンゼンの細菌を用いる復帰突然変異試験

厚生省生活衛生局　委託

財団法人食品薬品安全センター
秦野研究所

【目　　次】

頁

要　　約 …… 1

緒　　言 …… 2

材料および方法 …… 3

結果および考察 …… 7

結　　論 …… 8

特　記　事　項 …… 8

文　　献 …… 8

Tables　　1～3

【要　　約】

ジビニルベンゼンの変異原性の有無を、細菌を用いる復帰突然変異試験により検討し、陰性の結果を得た。

検定菌として、*Salmonella typhimurium* TA100、TA1535、TA98、TA1537 および *Escherichia coli* WP2 *uvrA* の５菌株を用い、S9 mix 無添加および添加の条件でプレインキュベーション法により用量設定試験および２回の本試験を行った。用量設定試験を 50.0～5000 μg/プレート の用量で行ったところ、 S9 mix 無添加試験においては、TA100 と TA1535 ではすべての用量で、その他の検定菌では 150 μg/プレート 以上で抗菌性が認められた。また、S9 mix 添加試験においては WP2 *uvrA* では 500 μg/プレート 以上で、その他の検定菌では 150 μg/プレート 以上で抗菌性が認められた。したがって、本試験では最高用量を S9 mix 無添加試験においては、TA100 および TA1535 は 50.0 μg/プレート、TA98 および TA1537 は 100 μg/プレート、WP2 *uvrA* は 200 μg/プレート とし、S9 mix 添加試験については WP2 *uvrA* は 500 μg/プレート、その他の検定菌は 200 μg/プレート として、公比２で６～７用量を設定して実施した。ただし、TA100 の S9 mix 無添加試験では、本試験Ⅰの最高用量の 50.0 μg/プレート において抗菌性が認められなかったため、最高用量を 100 μg/プレート に上げて本試験Ⅰをやり直すとともに、本試験Ⅱを実施した。

その結果、２回の本試験とも用いた５種類の検定菌のいずれの用量においても、溶媒対照値の２倍以上となる復帰変異コロニー数の増加は認められなかったことから、ジビニルベンゼンは、用いた試験系において変異原性を有しないもの（陰性）と判定した。

【緒　　言】

既存化学物質安全性点検に係る毒性調査事業の一環として、ジビニルベンゼンについて、細菌を用いる復帰突然変異試験をプレインキュベーション法[1]により実施した。

この試験は、サルモネラ菌（ネズミチフス菌）におけるヒスチジン要求性から非要求性への復帰突然変異[2]、ならびに大腸菌におけるトリプトファン要求性から非要求性への復帰突然変異[3]を指標とした変異原性の検出系である。

試験は、被験物質をそのまま検定菌に作用させる S9 mix 無添加試験と、哺乳動物のもつ薬物代謝酵素によって産生される被験物質の代謝物の変異原性を試験する S9 mix 添加試験とからなっている。

本試験は、「新規化学物質に係る試験の方法について」（昭和62年３月31日、環保業第237号、薬発第 306号、62基局第 303号）および「OECD毒性試験ガイドライン：471、472」に準拠し、「化学物質GLP基準」（昭和59年３月31日、環保業第39号、薬発第229号、59基局第85号、改訂昭和63年11月18日、環企研第 233号、衛生第38号、63基局第823号）に基づいて実施した。

【材料および方法】

〔検　定　菌〕

Salmonella typhimurium TA100
Salmonella typhimurium TA1535
Escherichia coli WP2 *uvrA*
Salmonella typhimurium TA98
Salmonella typhimurium TA1537

S. typhimurium の4菌株は1975年10月31日に

から分与を受けた。

E. coli WP2 *uvrA* 株は1979年5月9日に から分与を受けた。

検定菌は−80℃以下で凍結保存したものを用い、各菌株の特性確認は、凍結保存菌の調製時に、アミノ酸要求性、UV感受性および膜変異（rfa）とアンピシリン耐性因子pKM 101（プラスミド）の有無について調べ、特性が維持されていることを確認した。

試験に際して、ニュートリエントブロスNo.2（Oxoid）を入れたL字型試験管に解凍した種菌を一定量接種し、37℃で10時間往復振とう培養したものを検定菌液とした。試験に用いた各検定菌液の濁度を Appendix 1に示した。

〔被験物質〕

ジビニルベンゼン（略称：ＤＶＢ、CAS No. 1321-74-0）は、分子量 130.19 の無色透明液体である。構造式等は Appendix 2に示した。用いた被験物質は、ロット番号 純度 96.2 wt%（異性体混合物、不純物： 3.2 wt% エチルビニルベンゼン、1010 ppm *p-tert*-ブチルカテコール、0.6 wt% その他）であり、 から供与された。被験物質は、使用時まで遮光して冷蔵した。本ロットについては、試験期間中安定であることを確認した。

ＤＶＢは、ジメチルスルホキシド（DMSO、ロット番号：DLF7632、和光純薬工業㈱）に溶解して最高濃度の調製液を調製した後、同溶媒で所定の濃度に希釈して速やかに試験に用いた。

〔陽性対照物質〕

用いた陽性対照物質およびその溶媒は以下のとおりである。

AF2	: 2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド	(上野製薬㈱	ロット番号 46,	純度99.9%)
SA	: アジ化ナトリウム	(和光純薬工業㈱	ロット番号 TWR3330,	純度90%以上)
9AA	: 9-アミノアクリジン	(Sigma Chem. Co.	ロット番号 96F05641,	純度98%以上)
2AA	: 2-アミノアントラセン	(和光純薬工業㈱	ロット番号 DSF2950,	純度90%以上)

AF2 および 2AA は DMSO に溶解したものを－20℃で凍結保存し、用時解凍した。9AA は DMSO に、SA は超純水に溶解し、速やかに試験に用いた。

〔培地および S9 mix の組成〕

1）トップアガー（TA菌株用）

下記の水溶液（A）および（B）を容量比 10:1 の割合で混合した。

(A) バクトアガー (Difco)	0.6%	(B)* L-ヒスチジン	0.5 mM
塩化ナトリウム	0.5%	D-ビオチン	0.5 mM

* : WP2 *uvrA* 用には、0.5 mM L-トリプトファン水溶液を用いた。

2）合成培地

培地は、極東製薬工業㈱製の最少グルコース寒天培地（ロット番号：HY1604、1996年10月25日製造、および HY2001、1997年２月７日製造）を用いた。なお、培地１ℓあたりの組成は下記のとおりである。

硫酸マグネシウム・7水和物	0.2ｇ	水酸化ナトリウム	0.66ｇ
クエン酸・1水和物	2ｇ	グルコース	20ｇ
リン酸水素二カリウム	10ｇ	バクトアガー（清水食品）	15ｇ
リン酸一アンモニウム	1.92ｇ		

径 90 mm のシャーレ１枚あたり 30 *ml* を流して固めたものである。

3） S9 mix（1 mℓ中下記の成分を含む）

S9**	0.1 mℓ	NADH	4 μmol
塩化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ	8 μmol	NADPH	4 μmol
塩化ｶﾘｳﾑ	33 μmol	ﾅﾄﾘｳﾑ-ﾘﾝ酸緩衝液 (pH 7.4)	100 μmol
ｸﾞﾙｺｰｽ-6-ﾘﾝ酸	5 μmol		

** ：7週齢の Sprague-Dawley 系雄ラットにフェノバルビタール(PB)および 5,6-ベンゾフラボン(BF)の併用投与を行い、酵素誘導して作製された S9（キッコーマン㈱、ロット番号：RAA-355、1996年11月22日製造および RAA-359、1997年2月21日製造）を購入し、-80℃で凍結保存し、用時に解凍して用いた。PB および BF の投与量は1日目 PB 30 mg/kg、2日目 PB 60 mg/kg、3日目 PB 60 mg/kg および BF 80 mg/kg、4日目 PB 60 mg/kg であり、いずれも腹腔内投与したもので、肝臓の摘出および S9 の調製は5日目。

〔試 験 方 法〕

プレインキュベーション法により、S9 mix 無添加試験および S9 mix 添加試験を行った。

小試験管中に、被験物質調製液 0.1 mℓ、リン酸緩衝液 0.5 mℓ（S9 mix 添加試験においては S9 mix 0.5 mℓ）、検定菌液 0.1 mℓ を混合し、37℃で20分間プレインキュベーションしたのち、トップアガー2 mℓを加えて混和し、合成培地平板上に流して固めた。また、対照群として被験物質調製液の代わりに使用溶媒、または数種の陽性対照物質溶液を用いた。各検定菌ごとに用いた陽性対照物質の名称および用量は各Table 中に示した。溶媒および陽性対照群は、同時に実施した他の試験と共通とした。培養は37℃で48時間行い、生じた変異コロニー数を目視またはコロニーカウンターを用いて算定した。抗菌性の有無については、肉眼あるいは実体顕微鏡下で、寒天表面の菌膜の状態から判断した。用いた平板は用量設定試験においては、溶媒および陽性対照群では3枚ずつ、各用量については1枚ずつとした。また、本試験においては、両対照群および各用量につき、3枚ずつを用い、それぞれの平均値と標準偏差を求めた。用量設定試験は1回、本試験は2回実施し、結果の再現性の確認を行った。

〔判 定 基 準〕

結果の判定に統計学的手法は用いないこととした。

用いた5種の検定菌のうち、1種以上の検定菌の S9 mix 無添加試験あるいは S9 mix 添加試験において、被験物質を含有する平板上における変異コロニー数の平均値が、溶媒対照値の2倍以上に増加し、その増加に再現性および用量依存性が認められた場合に、当該被験物質は本試験系において変異原性を有するもの（陽性）と判定することとした。

【結果および考察】

〔用量設定試験〕

ＤＶＢについて 50.0～5000 μg/プレート の範囲で公比を約３として、試験を実施した（Table 1）。その結果、 S9 mix 無添加試験においては、TA100 と TA1535 ではすべての用量で、その他の検定菌では 150 μg/プレート 以上で抗菌性が認められた。また、S9 mix 添加試験においては WP2 *uvrA* では 500 μg/プレート 以上で、その他の検定菌では 150 μg/プレート 以上で抗菌性が認められた。

したがって、本試験における最高用量は、S9 mix 無添加試験については、TA100 と TA1535 は 50.0 μg/プレート、TA98 と TA1537 は 100 μg/プレート、WP2 *uvrA* は 200 μg/プレート とし、S9 mix 添加試験については WP2 *uvrA* は 500 μg/プレート、その他の検定菌は 200 μg/プレート とした。

〔本試験〕

上記の最高用量に基づいて、公比２で６～７用量を設定して本試験Ⅰを実施した（Table 2-1、2-2）。ただし、TA100 の S9 mix 無添加試験では、最高用量の 50.0 μg/プレート においても抗菌性が認められなかったため、最高用量を 100 μg/プレート に上げて本試験Ⅰをやり直した（Table 2-3）。さらに同一用量で本試験Ⅱを実施した（Table 3）。その結果、すべての検定菌において、２回の試験とも溶媒対照値の２倍以上となる変異コロニー数の増加は認められなかった。

ジビニルベンゼンの類縁化合物であるスチレンオキサイドは、細菌を用いる復帰突然変異試験および培養細胞を用いる染色体異常試験では陽性、マウスを用いる小核試験では陰性の結果が報告されているが[4, 5]、この試験においてはジビニルベンゼンの変異原性は認められなかった。

ＤＶＢについて実施したすべての試験において、用いた試験の調製液および S9 mix への雑菌の混入は認められなかった。また、陽性対照試験ではいずれの検定菌においても陽性対照物質の変異原性が検出され、溶媒対照値とともに、計測された変異コロニー数はヒス

トリカルコントロール値の範囲内であったことから、本試験系の有効性が確認された。

【結　　論】

以上の結果に基づき、ジビニルベンゼンは、用いた試験系において変異原性を有しないもの（陰性）と判定した。

【特　記　事　項】

試験の全過程を通して、試験の信頼性に影響を及ぼすおそれのある予期し得なかった事態、および試験計画書からの逸脱はなかった。

【文　　献】

1）Matsushima, T., Sugimura, T., Nagao, M., Yahagi, T., Shirai, A., Sawamura, M.: in "Short-Term Test Systems for Detecting Carcinogens" Norpoth, K.H., Garner, R.C. eds. Springer, Berlin-Heidelberg-New York (1980) pp. 273-285

2）Maron, D.M., Ames, B.N.: Mutation Research 113: 173-215 (1983)

3）Venitt, S., Crofton-Sleigh, C.: in "Evaluation of Short-Term Tests for Carcinogens" de Serres, F.J., Ashby, J. eds, Elsevier/North-Holland, New York (1981) pp. 351-360

4）Morita, T., Asano, N., Awogi, T., Sasaki, Y.F., Sato, S., Shimada, H., Sutou, S., Suzuki, T., Wakata, A., Sofuni, T., Hayashi, M. : Mutation Research

389: 3-112(1997)

5) Morita, T., Asano, N., Awogi, T., Sasaki, Y. F., Sato, S., Shimada, H., Sutou, S., Suzuki, T., Wakata, A., Sofuni, T., Hayashi, M. : Mutation Research 391:259-267(1997)

Table 1. Cytotoxicity of divinylbenzene on bacteria

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)					
		Base - pair substitution type			Frameshift type		
		TA100	TA1535	WP2 *uvrA*	TA98	TA1537	
S9 mix (-)	0	98 102 105 (102 ± 3.5)	13 10 16 (13 ± 3.0)	18 21 22 (20 ± 2.1)	25 23 29 (26 ± 3.1)	10 6 5 (7 ± 2.6)	
	50.0	70 *	13 *	27	18	2	
	150	0 *	0 *	14 *	0 *	0 *	
	500	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	
	1500	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	
	5000	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	
S9 mix (+)	0	149 123 95 (122 ± 27.0)	12 12 15 (13 ± 1.7)	29 23 25 (26 ± 3.1)	37 44 28 (36 ± 8.0)	9 8 11 (9 ± 1.5)	
	50.0	115	9	32	38	6	
	150	53 *	5 *	27	12 *	4 *	
	500	0 *	0 *	4 *	0 *	0 *	
	1500	0 *	0 *	4 *	0 *	0 *	
	5000	0 *	0 *	0 *	0 *	0 *	
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2	SA	AF2	AF2	9AA	
	Dose (μg /plate)	0.01	0.5	0.01	0.1	80	
	Number of colonies / plate	465 466 441 (457 ± 14.2)	296 322 317 (312 ± 13.8)	91 91 86 (89 ± 2.9)	508 532 569 (536 ± 30.7)	1333 1252 1413 (1333 ± 80.5)	
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA	2AA	2AA	2AA	2AA	
	Dose (μg /plate)	1	2	10	0.5	2	
	Number of colonies / plate	540 558 513 (537 ± 22.6)	182 219 198 (200 ± 18.6)	352 366 387 (368 ± 17.6)	511 504 533 (516 ± 15.1)	212 229 231 (224 ± 10.4)	

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.

Table 2-1. Mutagenicity of divinylbenzene on bacteria (I)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)											
		Base - pair substitution type						Frameshift type					
		TA100			TA1535			TA98			TA1537		
S9 mix (-)	0	114	101	100	14	15	21	22	17	23	6	6	10
		(105 ± 7.8)			(17 ± 3.8)			(21 ± 3.2)			(7 ± 2.3)		
	0.781	111	108	114	14	20	11	ND			ND		
		(111 ± 3.0)			(15 ± 4.6)								
	1.56	82	103	91	12	13	15	ND			ND		
		(92 ± 10.5)			(13 ± 1.5)								
	3.13	104	94	95	12	10	15	20	13	15	10	5	2
		(98 ± 5.5)			(12 ± 2.5)			(16 ± 3.6)			(6 ± 4.0)		
	6.25	103	108	106	15	15	10	14	26	16	4	6	6
		(106 ± 2.5)			(13 ± 2.9)			(19 ± 6.4)			(5 ± 1.2)		
	12.5	124	116	131	11	14	14	12	25	28	7	5	4
		(124 ± 7.5)			(13 ± 1.7)			(22 ± 8.5)			(5 ± 1.5)		
	25.0	114	94	85	10	9	16	18	17	15	5	2	6
		(98 ± 14.8)			(12 ± 3.8)			(17 ± 1.5)			(4 ± 2.1)		
	50.0	76	107	96	13 *	11 *	9 *	18	22	19	5 *	7 *	5 *
		(93 ± 15.7)			(11 ± 2.0)			(20 ± 2.1)			(6 ± 1.2)		
	100	ND			ND			7 *	9 *	0 *	0 *	6 *	0 *
								(5 ± 4.7)			(2 ± 3.5)		
S9 mix (+)	0	123	124	134	17	8	13	29	36	36	6	13	10
		(127 ± 6.1)			(13 ± 4.5)			(34 ± 4.0)			(10 ± 3.5)		
	6.25	132	122	120	16	16	12	30	27	30	7	6	6
		(125 ± 6.4)			(15 ± 2.3)			(29 ± 1.7)			(6 ± 0.6)		
	12.5	123	117	127	9	16	16	26	40	28	8	6	7
		(122 ± 5.0)			(14 ± 4.0)			(31 ± 7.6)			(7 ± 1.0)		
	25.0	108	106	117	14	9	12	32	25	28	3	11	10
		(110 ± 5.9)			(12 ± 2.5)			(28 ± 3.5)			(8 ± 4.4)		
	50.0	136	123	101	14	18	10	28	23	20	7	5	6
		(120 ± 17.7)			(14 ± 4.0)			(24 ± 4.0)			(6 ± 1.0)		
	100	78 *	105 *	82 *	4 *	7 *	13 *	16	20 *	19 *	8 *	7 *	6 *
		(88 ± 14.6)			(8 ± 4.6)			(18 ± 2.1)			(7 ± 1.0)		
	200	29 *	57 *	48 *	1 *	3 *	6 *	19 *	14 *	24 *	7 *	0 *	0 *
		(45 ± 14.3)			(3 ± 2.5)			(19 ± 5.0)			(2 ± 4.0)		
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2			SA			AF2			9AA		
	Dose (μg /plate)	0.01			0.5			0.1			80		
	Number of colonies / plate	501	539	554	367	379	353	618	632	592	1516	1966	2060
		(531 ± 27.3)			(366 ± 13.0)			(614 ± 20.3)			(1847 ± 290.8)		
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA			2AA			2AA			2AA		
	Dose (μg /plate)	1			2			0.5			2		
	Number of colonies / plate	539	559	600	228	226	215	367	385	370	170	210	183
		(566 ± 31.1)			(223 ± 7.0)			(374 ± 9.6)			(188 ± 20.4)		

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.

ND : Not done

Table 2-2. Mutagenicity of divinylbenzene on bacteria (I)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)					
		Base - pair substitution type					
				WP2 *uvrA*			
S9 mix (-)	0			17 17 20 (18 ± 1.7)			
	6.25			17 19 24 (20 ± 3.6)			
	12.5			25 16 22 (21 ± 4.6)			
	25.0			15 16 22 (18 ± 3.8)			
	50.0			15 17 13 (15 ± 2.0)			
	100			19 16 23 (19 ± 3.5)			
	200			19 * 23 * 15 * (19 ± 4.0)			
S9 mix (+)	0			13 23 30 (22 ± 8.5)			
	15.6			20 29 18 (22 ± 5.9)			
	31.3			24 13 23 (20 ± 6.1)			
	62.5			24 21 16 (20 ± 4.0)			
	125			24 25 11 (20 ± 7.8)			
	250			14 * 15 * 13 * (14 ± 1.0)			
	500			0 * 0 * 0 * (0 ± 0.0)			
Positive control S9 mix (-)	Chemical			AF2			
	Dose (μg /plate)			0.01			
	Number of colonies / plate			86 85 89 (87 ± 2.1)			
Positive control S9 mix (+)	Chemical			2AA			
	Dose (μg /plate)			10			
	Number of colonies / plate			321 355 407 (361 ± 43.3)			

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.

Table 2-3. Mutagenicity of divinylbenzene on bacteria (I)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.) Base - pair substitution type TA100					
S9 mix (-)	0	91 102 95 (96 ± 5.6)					
	3.13	77 105 106 (96 ± 16.5)					
	6.25	92 94 102 (96 ± 5.3)					
	12.5	108 93 87 (96 ± 10.8)					
	25.0	95 97 109 (100 ± 7.6)					
	50.0	100 * 75 * 91 * (89 ± 12.7)					
	100	16 * 35 * 38 * (30 ± 11.9)					
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2					
	Dose (μg /plate)	0.01					
	Number of colonies / plate	507 528 538 (524 ± 15.8)					

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.

Table 3-1. Mutagenicity of divinylbenzene on bacteria (II)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)			
		Base - pair substitution type		Frameshift type	
		TA100	TA1535	TA98	TA1537
S9 mix (-)	0	107 107 99 (104 ± 4.6)	12 10 11 (11 ± 1.0)	25 23 22 (23 ± 1.5)	8 8 6 (7 ± 1.2)
	1.56	ND	17 15 13 (15 ± 2.0)	ND	ND
	3.13	77 104 92 (91 ± 13.5)	14 13 17 (15 ± 2.1)	19 22 33 (25 ± 7.4)	6 3 3 (4 ± 1.7)
	6.25	99 122 92 (104 ± 15.7)	14 16 12 (14 ± 2.0)	23 23 15 (20 ± 4.6)	9 3 8 (7 ± 3.2)
	12.5	106 97 89 (97 ± 8.5)	12 12 13 (12 ± 0.6)	24 27 20 (24 ± 3.5)	6 7 3 (5 ± 2.1)
	25.0	84 105 90 (93 ± 10.8)	10 15 10 (12 ± 2.9)	21 17 22 (20 ± 2.6)	6 6 4 (5 ± 1.2)
	50.0	71 * 93 * 103 * (89 ± 16.4)	6 * 7 * 8 * (7 ± 1.0)	18 18 18 (18 ± 0.0)	3 3 * 2 (3 ± 0.6)
	100	11 * 2 * 8 * (7 ± 4.6)	ND	3 * 9 * 1 * (4 ± 4.2)	1 * 0 * 0 * (0 ± 0.6)
S9 mix (+)	0	107 127 111 (115 ± 10.6)	17 15 20 (17 ± 2.5)	35 30 37 (34 ± 3.6)	12 11 13 (12 ± 1.0)
	6.25	89 101 101 (97 ± 6.9)	13 20 16 (16 ± 3.5)	36 37 30 (34 ± 3.8)	10 14 10 (11 ± 2.3)
	12.5	112 127 111 (117 ± 9.0)	9 15 11 (12 ± 3.1)	27 26 27 (27 ± 0.6)	16 8 6 (10 ± 5.3)
	25.0	100 104 102 (102 ± 2.0)	9 11 11 (10 ± 1.2)	41 34 35 (37 ± 3.8)	8 8 12 (9 ± 2.3)
	50.0	112 103 126 (114 ± 11.6)	11 13 10 (11 ± 1.5)	30 26 28 (28 ± 2.0)	12 12 11 (12 ± 0.6)
	100	78 * 62 * 80 * (73 ± 9.9)	11 * 12 * 10 * (11 ± 1.0)	25 25 22 (24 ± 1.7)	6 * 8 5 (6 ± 1.5)
	200	22 * 14 * 14 * (17 ± 4.6)	0 * 0 * 1 * (0 ± 0.6)	21 * 15 * 25 * (20 ± 5.0)	6 * 6 * 2 * (5 ± 2.3)
Positive control S9 mix (-)	Chemical	AF2	SA	AF2	9AA
	Dose (μg /plate)	0.01	0.5	0.1	80
	Number of colonies / plate	517 534 534 (528 ± 9.8)	439 448 429 (439 ± 9.5)	620 612 576 (603 ± 23.4)	1726 1314 1091 (1377 ± 322.2)
Positive control S9 mix (+)	Chemical	2AA	2AA	2AA	2AA
	Dose (μg /plate)	1	2	0.5	2
	Number of colonies / plate	529 552 580 (554 ± 25.5)	240 217 201 (219 ± 19.6)	460 375 346 (394 ± 59.2)	276 233 196 (235 ± 40.0)

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , SA: Sodium azide, 9AA: 9-Aminoacridine, 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.

ND : Not done

Table 3-2. Mutagenicity of divinylbenzene on bacteria (II)

With (+) or without (-) S9 mix	Test substance dose (μg /plate)	Number of revertants (number of colonies / plate, mean ± S.D.)					
		Base - pair substitution type					
				WP2 *uvrA*			
S9 mix (-)	0			16 19 16 (17 ± 1.7)			
	6.25			21 18 23 (21 ± 2.5)			
	12.5			8 20 21 (16 ± 7.2)			
	25.0			17 14 12 (14 ± 2.5)			
	50.0			17 18 13 (16 ± 2.6)			
	100			22 * 20 * 13 * (18 ± 4.7)			
	200			4 * 0 * 0 * (1 ± 2.3)			
S9 mix (+)	0			28 27 24 (26 ± 2.1)			
	15.6			32 26 23 (27 ± 4.6)			
	31.3			34 19 22 (25 ± 7.9)			
	62.5			17 20 24 (20 ± 3.5)			
	125			21 19 25 (22 ± 3.1)			
	250			12 * 18 * 20 * (17 ± 4.2)			
	500			0 * 2 * 0 * (1 ± 1.2)			
Positive control S9 mix (-)	Chemical			AF2			
	Dose (μg /plate)			0.01			
	Number of colonies / plate			80 93 77 (83 ± 8.5)			
Positive control S9 mix (+)	Chemical			2AA			
	Dose (μg /plate)			10			
	Number of colonies / plate			400 377 331 (369 ± 35.1)			

AF2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide , 2AA: 2-Aminoanthracene

*: Inhibition was observed against growth of the bacteria.

Purity was 96.2 wt% (mix of isomers) and 3.2 wt% ethylvinylbenzene, 1010 ppm p-tert-butylcatechol and 0.6 wt% others were contained as impurities.